

## アジア編:

### 成長見込まれるアジア・太平洋地域 PC 市場

世界各地で需要が高まる PC は、日本を除くアジア・太平洋地域でもノート型、モバイル向け PC を中心に堅調な出荷数成長を示している。特に、アジアでは、Lenovo(中国)、Acer(台湾)といった地元メーカーと、Hewlett Packard(HP)、Dell といった米系メーカーの攻防が目立っている。2008 年も同地域では成長が続くと見られているものの、不安定な政治情勢が PC 市場に与える影響を危惧する声もある。

#### <堅調なアジア・太平洋 PC 市場>

2007 年の日本を除くアジア・太平洋 PC 市場の出荷台数は、前年比 20.9% 増の 6,660 万台に上ると、調査会社 IDC が 1 月 21 日付で発表(速報数値)。メーカー別出荷台数シェアは、①Lenovo(18.4%)、②Hewlett-Packard(HP、13.9%)、③Dell(7.8%)、④Acer(7.6%)、⑤Founder(5.1%)。Lenovo は、2005 年に IBM のコンピュータ部門を買収してから、その後が危惧されていたが、2007 年、見事にアジアの王者となった。IBM の高価な PC のイメージから、手頃な PC へのイメージチェンジに成功、アジアの PC ブームに上手く乗り地元の信頼を勝ち取ったといえるだろう。また、2007 年の世界覇者となった HP だが、アジアでは 2 位に甘んじている。しかし、2006-2007 年の成長率では、HP が最も高く 52.3% 増、続いて Acer が 37.5% 増、Lenovo27.4% 増、Dell22% 増。Acer は、2007 年に米国メーカーの Gateway を買収した際に「一石二鳥の取引(2007 年 8 月 28 日付 DigiTimes)」と評されており、米国市場シェアで 3 位を占めていた Gateway をどのように取り入れていくのか、Lenovo 同様、今後の動きが気になるメーカーといえる。同じく IDC 発表による 2007 年第 4 四半期の出荷台数の前年同期比成長率を見てみると、HP45.6% 増、Acer45.4% 増、Dell38.9% 増、Lenovo25.9% 増となっており、世界各地で好調な HP と、勢いに乗る地元台湾のメーカー Acer、バッテリー問題で失った信頼を取り戻しつつある Dell の追い上げと、王者の威信をかけた Lenovo といったトップ・メーカー間の熾烈な争いが 2008 年も続きそうな気配だ。

#### <堅調ながら不安定要素抱える東南アジア市場>

2007 年第 4 四半期の国別傾向で見ると、インド、マレーシア、ベトナムがやや緩やかな成長となったものの、概ね堅調な成長を示している。特にインドネシアでは、海外からのポータブル PC の税関通過が簡素化されたため、売れ行きが好調とのこと。シンガポールでは、SITEX、COMEX といった情報家電展示会が消費者向け PC の出荷を促した感があり、同国の PC 市場を牽引。期待されていた前年同期比 22% 増を超えると見られているが、2008 年の成長は、やや鈍化する見込み(IDC 発表)。また、2007 年第 4 四半期出荷台数に関する 1 月 16 日付 Gartner 発表によると、同地域ではモバイル PC の出荷成長が顕著であり、特にインドとベトナムでは、前年同期比が 3 桁の成長を示しているとのこと(詳細数値不明)。こうした調査会社の発表を基にした 2008 年 1 月 18 日付 DigiTimes(オンライン)は、インドネシアとともに、オーストラリアにおける PC 市場の成長も目立ったとのこと。このように、全体的には堅調な成長を見せるアジア・太平洋地域ではあるが、パキスタンをはじめとした東南アジア諸国の不安定な政治情勢が市場に与える影響が大きいと指摘している。